

発行所  
長野県保険医協会  
〒380-0928 長野市若里 1-5-26  
電話 026-226-0086  
FAX 026-226-8698  
E-mail office@nagano-hok.com  
年間購読料 3,600円  
会員の購読料は会費に含まれています



2024年(令和6年)6月25日  
No.520 (毎月1回25日発行)  
(1990年6月22日第三種郵便物認可)  
主な記事  
2024年度個別指導計画/医療情報取得加算…2面、市民アクション/すすめる会総会/訪問介護報酬引き上げを求める活動…3面、医療情報取得加算 Q&A…4面

## 6/6 保険証を残して！国会内集会に参加 弁護士会等との協力の輪が広がる

6月6日、保団連主催の「保険証の存続を求める国会内集会」が開催され、長野協会からは宮沢会長、林・市川各副会長と事務局が参加した。

開会の挨拶として保団連の武村副会長は「政府は『マイナ保険証を使うと医療費が安くなる』と言い、マイナ保険証利用者とそうでない人を医療費で差別している。平等な社会保障を守る意味でも大切な運動だ」と述べ、保険証廃止予定の12月2日まで残り半年を切った中で運動のラストスパートを呼び掛けた。

会場には8名の国会議員が駆けつけ、枝野幸雄衆議院議員(立憲)は、「医

療を受けるという人権を脅かすこの問題は、十分な検討も準備もなく進められ、廃止日が近づくとつれていよいよ問題が噴出している。多くの国民も気付き始めていると思う。我々政治家もさらに大きなうねりを起こして、国民とともに廃止を阻止できるよう頑張って参りたい」と挨拶した。

総務委員会でデジタル化について担当している岡本明子衆議院議員(立憲)は、「資格確認書をどんな形態で出すのか先日確認したところ、現行のカードタイプの健康保険証の左上に記載された『被保険者証』の名称が『資格確認書』に変わるだけで、それ以外



「保険証を残そう」プラカードを全員で掲げた

## 医科新点数 Q & A 検討会を開催

県保険医協会では5月13日から17日にかけて医科新点数Q&A検討会を開催した。飯田、上田、長野、松本の4会場を設け、合計145名が参加した。テキストは5月9日に発刊した『新点数・介護報酬Q&Aーレセプトの記載ー』を使用した。3月開催の検討会では告示・通知上の取扱いを解説したのに対し、今回は実務に沿って、厚労省疑義解釈や保団連オリジナルのQ&A、レセプトの記載要領、介護報酬の医療系点数等について解説した。



上田会場の様子

入院点数については、協会ホームページで会員限定の動画配信にて解説している。検討会の開催録画も公開中(下記URL又はQRコード)。別紙で案内のパスワードを入力してご視聴ください。

<https://nagano-hok.com/school/14888.html>



## 8月号より発刊日が変更となります

長野県保険医新聞は8月号(第522号)より、毎月5日の発刊となります。ご不便をおかけいたしますが、よろしくお願いいたします。

は内容、材質等全く同じものを発行すると回答を受けた。それならばわざわざコストをかけてまで作り直さずとも現行のままでもいいじゃないかと追及したが、厚労省は「法律があるので…」と濁しつつ、様式を変えないのはささやかな抵抗なのではないかと思っている」と述べ、「保険証廃止に伴う代替物の送り分けの手間やコストを増やすのがデジタル化なのかと今後も追及していきたい」と意気込んだ。

また、他団体からは日本弁護士連合会の野呂副会長、埼玉弁護士会の大塚会長が「マイナ保険証一本化の阻止」に向けて連帯の挨拶を行った。日弁連の野呂副会長は、「私たちは、基本的人権の擁護の観点から、現在進められている施策が本当に権利を擁護・推進する方向なのか、逆行するものなのか、見極めた上でマイナ保険証一本化は反対としている」とし、昨年11月に提出した意見書を紹介した。

埼玉弁護士会の大塚会長は、埼玉県保険医協会と共同で開催した市民向けシンポジウムについて報告。1回目は想像を超える400名もの市民が参加し、「もっと知りたい」の声に応じて開催した2回目はキャパを狭めたものの300名が参加したとして、「市民の関心の高さが伺えた。今後も連携し

て活動を広げていく」と表明した。

その他、岩手県、茨城県、大阪府、福岡県、岐阜県、滋賀県、宮崎県、鹿児島県の各弁護士会等からもメッセージや賛同が寄せられ、保険証の存続を求める運動の輪が広く、強くなっていることが再確認された。

集会には国会現地200名(うち国会議員8名、マスコミ11社)、Web接続48箇所96名の計300名が参加した。

集会の前後では県選出国会議員の各議員室を回った。神津たけし衆議院議員、羽田次郎参議院議員(秘書対応)に長野協会が集約した署名1,905筆分を手渡したほか、杉尾秀哉参議院議員と懇談を行った。



(上)神津議員に署名を手渡した(下)杉尾議員と懇談

## ベースアップ評価料届出の手引き(オリジナル動画)を公開中

今次改定で新設の各ベースアップ評価料の届出方法の解説動画を長野県保険医協会のホームページで公開中。届出書類を作成する際に、別紙で案内のパスワードを入力してご視聴ください。

<https://nagano-hok.com/shaho/14922.html>



## 鶏声

生成AIにキーワードを示し開業医のぼやきを書かせてみました。本コラムは筆者が加筆修正したものです。◆開業医として診療に追われる日々ですが、昨今の医療現場はますます厳しい状況に置かれています。この6月の保険点数改定は、内科の収入に大きなマイナスの影響を及ぼしてきて、このせいで経営見通しが不透明になり、多くの開業医が苦しんでいます。◆また、職員給与のベースアップを求められる一方で、原資がないという現実があります。医療従事者の待遇改善は当然必要ですが、無い袖は振れません。また、物価高による固定費の増加も経営をえらい圧迫しています。光熱費や材料費の価格が上昇し、支出が増える一方です。ほんまに、どないしたらええねんという感じ

です。◆それから、政府が進める医療IT化への対応も無理ですわ。電子カルテやオンライン診療の導入は、医療の効率化を図るために大事かもしれませんが、そのための初期投資や維持費用が重すぎます。特に中小零細のクリニックにとっては、負担が大きすぎる現状です。正直、これを機会に廃業しようかと考えることもありますねん。◆しかしながら、こんな厳しい状況に直面しながらも、患者さん一人ひとりの健康を守るため、日々努力を続けたいです。地域医療を支える立場として、何とか前向きに取り組んでいきたいと思っています。「先生だけが頼りだから辞めないで」という声を励みに、いつの日かこの困難を乗り越えられることを期待して、あと1年また1年と頑張りますわ。(M)